

令和 8 年度病虫害発生予察予報第 5 号(令和 8 年 8 月)

令和 8 年 8 月 6 日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稲 (普通期稲)	いもち病(穂いもち) 紋枯病 ごま葉枯病 ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ トビイロウンカ 斑点米カメムシ類 コブノメイガ イネヨトウ イネクロカメムシ	<u>多(西)、やや多(中央、中西)</u> 、少(東) <u>多(西)、やや多(中西)</u> 、 <u>平年並(中央)</u> 、少(東) <u>多(中央、中西、西)</u> 、少(東) <u>多(西)</u> 、 <u>平年並(中央)</u> 、やや少(東、中西) <u>多(西)</u> 、 <u>平年並(中西)</u> 、やや少(中央)、少(東) <u>多(西)、やや多(中央)</u> 、 <u>平年並(中西)</u> 、やや少(東) <u>多(東、中央、中西)</u> 、やや少(西) <u>多(県下全域)</u> <u>多(東、西)</u> 、やや少(中央、中西) <u>多(中央)</u> 、少(東、中西、西) <u>多(中央)</u> 、少(東、中西、西)
カンキツ類 (温州ミカン)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ 果樹カメムシ類	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u>
カンキツ類 (中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ 果樹カメムシ類	少(県下全域) <u>多(中央、中西、西)</u> 、 <u>平年並(東)</u> <u>多(東)</u> 、少(中央、中西、西) <u>多(中西、西)</u> 、 <u>平年並(中央)</u> 、やや少(東) <u>多(県下全域)</u>
ナシ	果樹カメムシ類	<u>多(中央)</u>
青ネギ	ネギアザミウマ シロイチモジヨトウ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県 東 部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県 西 部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

I 気象予報(高松地方気象台7月30日発表)

8月1日から8月31日までの天候見通し

＜予想される向こう1か月の天候＞

四国地方では、暖かい空気に覆われやすいため向こう1か月の気温は高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。向こう1か月の降水量及び日照時間はほぼ平年並、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は高い確率が80%、2週目は高い確率が70%、3～4週目は高い確率が50%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	10	20	70	
		降水量	30		40	30
		日照時間	30		40	30

＜気温経過の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	10	80	
2週目		10	20	70	
3～4週目		10	40	50	

＜予報の対象期間＞

1か月：8月1日(土)～8月31日(月)

1週目：8月1日(土)～8月7日(金)

2週目：8月8日(土)～8月14日(金)

3～4週目：8月15日(土)～8月28日(金)

II 病虫害発生予想

1 普通期稲の病虫害

1) いもち病(穂いもち)

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中央部、中西部)、少(東部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で葉いもちの発生が確認されており、発生面積は西部で平年より多く、中央部、中西部でやや多く、東部で少なかった。発病程度は西部で平年より高く、中西部でやや高く、東部、中央部では平年以下であった。
- (2) 例年普通期稲の出穂は8月中下旬より始まり、多くの地域で発生が見られ始める。
- (3) 多発ほ場では穂への感染も懸念されるが、8月の降水量はほぼ平年並となる見込みのため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。
- (3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) 紋枯病

予 想 発生量:多(西部)、やや多(中西部)、平年並(中央部)、少(東部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、中央部、中西部、西部で発生が見られ、発生面積は西部で平年よりやや多く、中西部で平年並、中央部でやや少なかった。発病程度は西部で平年よりやや高く、中央部、中西部で平年並であった。
- (2) 例年8月は県下全域で発生が増加傾向となり、7月に発生が確認されなかった東部においても、発生が見られ始めると考えられる。
- (3) 本病は高温、多湿条件で発生が助長される。8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並と予想されているため、大きな増加はないものの、現状より発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 止葉まで発病すると稔実が悪くなり減収するので、発生の多いほ場では穂孕期および穂揃期に薬剤防除を行う。

3) ごま葉枯病

予 想 発生量:多(中央部、中西部、西部)、少(東部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、中央部、中西部、西部で発生が見られ、発生面積は中央部、中西部で平年より多く、西部でやや多かった。発病程度は中央部、中西部で平年より高く、西部でやや高かった。
- (2) 例年8月は県下全域で発生が増加傾向となり、7月に発生が確認されなかった東部においても、発生が見られ始めると考えられる。
- (3) 本病の発生は、肥切れによって助長される。8月の気温は平年より高いと予想されているため、イネの老化が進みやすく、常発地域を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 適切な中干しや水管理を実施し、根の活力を維持する。
- (2) 穂軸、枝梗に発生すると穂枯れを生じるので、発生の多いほ場では穂孕期～穂揃期に薬剤防除を行う。

4) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量:多(西部)、平年並(中央部)、やや少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は西部で平年より多く、中央部で平年並、東部、中西部で平年より少なかった。発生程度は西部で平年より高く、中央部で平年並、東部、中西部で平年より低かった。
- (2) 例年8月は東部で増加傾向、中西部では横ばい、中央部、西部では減少傾向となる。
- (3) 8月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、

東部、中西部では発生が増加し、中央部、西部では現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 近年、本虫が媒介するイネ萎縮病の発生はほとんど発生していないが、出穂期から登熟期にかけて高密度になると稔実が悪くなることがあるので、その場合は他の病害虫とあわせて防除を行う。

5) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多(西部)、平年並(中西部)、やや少(中央部)、少(東部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、中央部、中西部、西部で発生が見られた。発生面積は西部で平年より多く、中西部でやや少なく、中央部で少なかった。発生程度は西部で平年より高く、中西部で平年並、中央部で低かった。
- (2) 例年8月は中央部、中西部、西部で増加傾向、東部では横ばいで推移している。
- (3) 8月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、県下全域で発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本県では、本虫の媒介する縞葉枯病等の発生はほとんど見られない。防除については、ほ場内の密度が増加した場合やトビイロウンカとの同時防除を実施する。

6) セジロウンカ

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中央部)、平年並(中西部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年よりやや多く、中央部、中西部では平年並、東部で少なかった。発生程度は西部で平年より高く、中央部、中西部では平年並、東部で低かった。
- (2) 例年8月は東部、中央部で横ばい、中西部、西部では減少傾向となる。
- (3) 8月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、東部、中央部で発生は増加、中西部、西部では現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 防除については、ほ場内の密度が増加した場合やトビイロウンカとの同時防除を実施する。

7) トビイロウンカ

予 想 発生量：多(東部、中央部、中西部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 7月の調査では、東部、中央部、中西部で発生が見られた。発生面積はいずれも平年より多く、発生程度は東部、中央部で平年より高く、中西部で平年並であった。西部では発生が見られていないが、他地域の発生状況を考慮すると飛来しているものと考えられる。
- (2) 例年8月は県下全域で増加傾向となる。
- (3) 海外飛来性害虫飛来予測システムでは、本県への飛来が5～7月に複数回予測され、西部にも多く到達したと考えられる。また、8月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、県下全域で発生は増加し、西部でも現状より多く発生すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は局所的に発生するので、ほ場全体の見回りを徹底する。
- (2) 株元に寄生するので、防除を行う場合は株元に薬剤が十分かかるようにする。

8) 斑点米カメムシ類

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 6月中旬～7月中旬に実施した早期稲の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は平年並であった。1ほ場あたりの捕獲頭数は中央部で平年より多く、中西部でやや多く、西部で平年並、東部で平年より少なかった。
- (2) 普通期稲でも出穂前にも関わらず、県下全域で斑点米カメムシ類の発生が確認されている。
- (3) 8月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることや、普通期稲ほ場での発生状況から、県下全域で発生は多くなると考えられる。

対 策

- (1) 出穂期以降にカメムシ類の発生がわずかでも見られる場合、斑点米の発生が懸念されるので、穂揃期及びその5～7日後に防除する。ただし、イネカメムシの発生が多い場合には、出穂期の加害により不稔となる恐れがあるので、他のカメムシ類よりも早く、出穂期に防除を実施する。
- (2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤(ネオニコチノイド剤等)を用いる。

9) コブノメイガ

予 想 発生量：多(東部、西部)、やや少(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 7月の調査では県下全域で発生が確認された。発生面積は東部、西部で平年より多く、中央部、中西部で平年より少なかった。発生程度は東部、西部で平年より高く、中央部、中西部で平年より低かった。
- (2) 例年8月は県下全域で増加傾向となる。
- (3) トビイロウンカ等を対象とした海外飛来性害虫飛来予測システムでは、本県への飛来が5～7月に複数回予測されている。本虫も海外飛来性害虫であり、本県に複数回にわたり飛来したと考えられる。8月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、県下全域で発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 止め葉の被害葉率が20%を超えると減収になるので、発生が多い場合には薬剤防除を行う。

10) イネヨトウ

予 想 発生量：多(中央部)、少(東部、中西部、西部)

根 拠

- (1) 7月の調査では中央部で発生が確認され、発生面積は平年より多く、発生程度は平年より高かった。
- (2) 早期稲では7月に東部、中央部、中西部で発生が見られており、これらの地域では普通期稲ほ場においても、本虫の発生が見られる可能性がある。

- (3) 8月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 幼虫はふ化後茎内へ食入し、芯枯れや白穂等の被害をもたらすため、発生が多い場合には薬剤防除を行う。

11) イネクロカメムシ

予 想 発生量：多(中央部)、少(東部、中西部、西部)

根 拠

- (1) 7月の調査では中央部で発生が確認され、発生面積は平年より多く、発生程度は平年より高かった。
(2) 早期稲では7月に東部、中央部、西部で発生が見られており、これらの地域では例年8月以降の発生が増加傾向である。
(3) 8月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖には好適となることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 幼虫の加害により穂の出すくみや白穂等の発生、成虫の加害により不稔やくず米等の被害をもたらすため、発生が多い場合には若齢幼虫期に薬剤防除を行う。

2 カンキツ(温州ミカン)の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 7月の調査では発生面積は平年より多く、発病程度は平年よりやや高かった。
(2) 例年8月は同程度の発生が続く傾向が見られる。
(3) 8月の降水量はほぼ平年並と予想されていることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 7月の調査では発生面積は平年よりもやや多く、発病程度は平年並であった。
(2) 例年8月以降は増加傾向となる。
(3) 8月の降水量はほぼ平年並と予想されているが、例年の発生状況から増加傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
(2) 前回の防除以後の累積降雨量が250mm前後に達した時点で次の散布を行う。一般的には5月中下旬から7月上旬の間に3回程度、8月下旬から9月上旬にかけて1～2回

散布する。発病の多いほ場では適宜散布回数を増やす。

3) かいよう病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 7月の調査では発生面積は平年よりも多く、発病程度は高かった。
- (2) 例年8月以降は増加傾向となる。
- (3) 8月の降水量はほぼ平年並と予想されているが、例年の発生状況から現状で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 7月の調査では発生面積は平年並、発生程度は平年より高かった。
- (2) 例年8月は同程度の発生が続く傾向が見られる。
- (3) 8月の気温は平年より高いと予想されており、高温期には本虫の増殖が緩慢となることから発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) 果樹カメムシ類

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 7月の調査では園地での発生は確認されなかった。
- (2) 県内4地点に設置したフェロモントラップによる7月の誘殺数は、県下全域で平年より多くなっている。また、県内2地点に設置した予察灯においては、南国市でミナミアオカメムシ17頭(平年値5.8頭)、チャバネアオカメムシ9頭(平年値17.3頭)、四万十市でミナミアオカメムシ19頭(平年値0.0頭)、チャバネアオカメムシ42頭(平年値21.9頭)と、平年より多い誘殺が見られている。
- (3) 8～10月の気温は平年並か高くなると予想されており、今後、果樹カメムシ類の活動が活発になると予想される。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

3 カンキツ(中晩柑類)の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：少(県下全域)

根 拠

- (1) 7月の調査では東部で発生が見られ、発生面積は平年より少なく発病程度も低か

った。

(2) 例年8月は減少傾向となる。

(3) 8月の降水量はほぼ平年並と予想されていることから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量:多(中央部、中西部、西部)、平年並(東部)

根 拠

(1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部、西部で平年より多く、中西部では平年並、東部でやや少なかった。発病程度は中西部、西部で平年より高く、東部でやや低く、中央部で低かった。

(2) 例年8月以降は増加傾向となる。

(3) 8月の降水量はほぼ平年並と予想されているが、例年の傾向から発生は増加傾向で推移する考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除以後の累積降雨量が250mm前後に達した時点で次の散布を行う。一般的には5月中下旬から7月上旬の間に3回程度、8月下旬から9月上旬にかけて1~2回散布する。発病の多いほ場では適宜散布回数を増やす。

3) かいよう病

予 想 発生量:多(東部)、少(中央部、中西部、西部)

根 拠

(1) 7月の調査では東部で発生が見られ、発生面積は平年よりもやや多く、発病程度はやや高かった。

(2) 例年8月以降は増加傾向となる。

(3) 8月の降水量はほぼ平年並と予想されているが、例年の傾向から発生は増加傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量:多(中西部、西部)、平年並(中央部)、やや少(東部)

根 拠

(1) 7月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部、西部で平年より多く、東部、中央部で平年並であった。発生程度は中西部、西部で平年よりも高く、中央部で平年並、東部で低かった。

(2) 例年8月は同程度の発生が続く傾向が見られる。

(3) 8月の気温は平年より高いと予想されており、高温期には本虫の増殖が緩慢となる

ことから発生増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) 果樹カメムシ類

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 7月の調査では園地で発生は確認されなかった。
- (2) 県内4地点に設置したフェロモントラップによる7月の誘殺数は、県下全域で平年より多くなっている。また、県内2地点に設置した予察灯においては、南国市でミナミアオカメムシ17頭(平年値5.8頭)、チャバネアオカメムシ9頭(平年値17.3頭)、四万十市でミナミアオカメムシ19頭(平年値0.0頭)、チャバネアオカメムシ42頭(平年値21.9頭)と平年より多い誘殺が見られている。
- (3) 8月の気温は平年より高くなると予想されており、今後も多い状態で推移すると予想される。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

4 ナシの病害虫

1) 果樹カメムシ類

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 7月の調査では園地で発生は確認されなかった。
- (2) 中央部に設置したフェロモントラップによる7月の誘殺数は、平年の約6.7倍とかなり多くなっている。また、中央部に設置した予察灯では、ミナミアオカメムシ17頭(平年値5.8頭)と平年より多い誘殺が見られている。
- (3) 8月の気温は平年より高くなると予想されており、今後も多い状態で推移すると予想される。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

5 青ネギの病害虫

1) ネギアザミウマ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 7月の調査では全調査ほ場で発生が見られ、発生面積は多く、発生程度は高かった。
- (2) 8月の気温は平年より高いが、降水量は平年並と予想されていることから、現状の発生で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 同一系統の農薬を連用すると抵抗性が発達しやすいので、異なる系統の農薬をローテーション散布する。

2) シロイチモジヨトウ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 発生面積は平年よりやや多く、発生程度は高かった。
(2) 8月の気温は平年より高いが、降水量は平年並と予想されていることから、現状の発生で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 卵塊や幼虫は見つけ次第除去する。
(2) 幼虫が葉内に食入すると効果が落ちるので葉内食入前の若齢期に薬剤防除を行う。
(3) 同一系統の農薬を連用すると抵抗性が発達しやすいので、異なる系統の農薬をローテーション散布する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)